

カイジユウとのたび

一宮南部小・2 いたう はずき

夏休みのはじめに、家ぞくでキスつりに行きました。海には、大雨のせいかゴミや流木りゅうが多くあり、水たまりもありました。お父さんが、

「くさい水たまりがある。」

と言いました。ぼくは、くさい水たまりをさがすため、近くをたんけんしました。水たまりのにおいをかいでみましたが、くさくはありませんでした。近くをぶらぶらしていると、大きなほねとしつぽを見つけました。

「クジラだ。」

とさげびました。

家ぞくで、ほねとしつぽをかんさつしました。ほねとしつぽは、とてもくさく、お父さんが言っていたくさい元は、これだと思いました。

次の日の朝、家ぞくで何のほねなのか話し合いました。ぼくは、何のほねか気になったので、もう一ど海に行くことにしました。すると、ほねは流木といっしょにもやされているところでした。しらべようと思っていたのにもやされていたので、かなしかったです。

これが何のほねなのかしらべられないかと考え、もえていないほ

ねをひろい、家にもち帰りました。

家に帰ると、学校でもらった「カイジユウ豊橋上陸とよはしじょうりく」というパ

ンフレットがありました。海にすむほにゆう類るいのことをカイジユウということをしりました。

ぼくは、カイジユウという名前が気に入ったので、ひろってきたほねを「カイジユウ」と名づけました。カイジユウの正体をしらべするために、ぼくは、カイジユウとたびに出ることにしました。

まず、パンフレットで見た豊橋自ぜんしはくぶつかんへ行き、カイジユウのほねを見くらべることにしました。

ぼくは、スナメリではないかと思いました。

はくぶつかんではたらく安井やすいさんに、カイジユウについて話をきいてみました。安井さんは、ほねの一つひとつがどのほねなのか

せつめいしてくれて、若いスナメリだということが分かりました。

ぼくは、ほねだけでは分からない顔やしつぽや色やどんなおよぎ方をするのかを生きているスナメリで見たいと思いました。

次の日、家ぞくとカイジユウをつれて、鳥羽水ぞくかんへスナメリを見に行くことにしました。

はじめてフェリーにのりました。フェリーは、とても大きくて車ものりました。フェリーの上で、スナメリが見えたらいいなと思い、海をながめながら鳥羽まで行きました。

鳥羽水ぞくかんではたらく若林わかさんに、カイジユウについて話

をきいてみました。若林さんにほねを見せると、

「それは、スナメリにまちがいない。」

と言いました。スナメリは、クジラぐうてい目でクジラのなかまだということも分かりました。ぼくがはじめ、

「クジラだ。」

とさけんだのは合っていたのです。

若林さんに生きているスナメリをバックヤードで見せてもらいました。スナメリは、大きくて白くてかわいい顔をしていました。

スナメリが、若林さんのちかくまで来てくれました。それを見て、若林さんのことが大すきなのだと思いました。

スナメリを見てスナメリのことが少し分かつて本当にうれしかったです。

カイジュウとのたびをおえて、カイジュウのほねは、クジラぐうてい目のスナメリだということが分かりました。

じつは、国のほうりつで、ほねはもちかえってはだめでした。ほねを売ったり買ったりしてほねにかちがでてしまうと、生きているスナメリがきけんになつてしまうからです。生きているスナメリをまもるために、きびしいほうりつがあることが分かりました。

家ぞくと話し合いをし、カイジュウを海にかえすことにしました。家ぞくで、たのしいたびをさせてくれたカイジュウとおわかれです。少しさみしいですが、人間と近い所で生活するスナメリとまた、つりをしているときに会えたらうれしいです。